



神学校週間によせて

2025.6.22(日)~29(日)



■技をみがく

おの まなぶ
大野 学 西南学院大学神学部 選科2年 釧路キリスト教会推薦

今回、神学校週間にあたり、日頃より神学生の成長を期待し、お祈りいただいている全国の諸教会、伝道所の3万人の信徒の皆さまに対し「証し」をできることを心より感謝いたします。

私は、推薦教会の牧師に憧れ献身を決意しました。信仰歴も短く、そのことがコンプレックスでありました。しかし、そのような不安は大学の先生方との人格的交流の中で、解消されていきました。なぜならば、先生方はどのような質問に対しても、真摯かつ誠実に受けとめ、そこから生徒のタラントを引き出そうと必死にかかわっていただけからです。それは、まさに授業ではなく牧会と表現しても良いかもしれません。

神学部の授業は信仰の有無に関係なく受講できます。そして、その授業で求められるのは聖書の記述を鵜呑みにせず自分で思考し、失敗を恐れず答えを自分で見つけていく挑戦的な姿勢です。先生方は学生たちの応答を心待ちにされています。ゼミナール形式の対話を重視した授業を通じての、先生方、学友との人格的交流がそのことを私に気づかせてくれました。

私はこれから、牧師でなければできない技術や、正確な知識を神学部の学びの中で、先生方や学友との交わりを大切にしながら身に付け、誰に対しても自信をもって、「西南学院大学神学部でこれを学んだ」と伝えられる、確かなものをもつ牧師を目指します。



「実践神学概論 A」の授業風景

■神学校の学びによって与えられた召命感

ひかわひでとし
氷川英俊 東京バプテスト神学校 専攻科2年 百合丘キリスト教会推薦

私は5年前に東京バプテスト神学校本科に入学しましたが、いよいよ専攻科の最終年度となりました。今年度は教会実習と卒業論文に専念する予定です。仕事をしながらの夜間の学びでしたので、仕事と学びの両立が難しい局面もありました。その中で全国の皆さまのお祈りと献金に支えられてここまで学びを続けることができたことを感謝いたします。

東京バプテスト神学校は門戸が全ての信徒に開かれており、召命感を持って専攻科で学んでいる方以外にも本科や後援会受講などを通してさまざまな方が学んでおられます。私も最初に本科に入学した動機は、聖書について学びたい、特に聖書を原語で読みたいというものでした。しかし、神学校での学びとは単に聖書の学びだけではなく、「実践神学」や「教会史」、「賛美歌学」などさまざまな講義があります。これらの科目も学んでみると意外に面白く、新しい発見だらけでした。このような講義や、また先生方や他の学生との交流を通して、キリスト者としての生き方を学ぶことができました。最初の講義で『「よく学んだ」で終わらず、「こう生きてみよう」が大切である。聖書にも「正しい答えだ。それを実行しなさい」(ルカ 10:28 善きサマリア人のたとえ)と書かれてある』と学んだのが今でも頭の中に残っています。

そのような神学校での学びと交わりを通して召命感が与えられ、現在専攻科で学んでおります。皆さまに感謝いたします。



「組織神学 II」の授業風景

■創造のリズムの中で「私(たち)の献身」を覚える1週間

ひはらひろし
日原広志 西南学院大学神学部部長



いつも神学部と神学生を覚えてくださり感謝します。神学生は個性豊かな個人であるだけでなく、背後にキリストのからだなる教会をそれぞれに持つ共同的存在でもあります。「誰かの献身」が「私(たち)の献身」でもあるのです。献身の主体は教会です。献身者個人ではありません。個人としてではなく、キリストのからだなる教会の肢体としての献身です。教会の外に、教会と無関係に生起する召命はあり得ません。たとえ献身志願者個人が召命体験において神と我との1対1の関係を強烈に刻印させられたとしても、その基層には教会の長い祈りの歴史が存在しています。その個人がすごいから献身するのではなく、私たちの献身が天に積み、たまたま1人の人間において生起するのです。ですから神学校週間は、神学校と神学生を覚えることで、献身の連鎖に参加している私たち1人ひとりを再発見し、再確認するときなのです。

神学校週間が「週間」として備えられていることも意義深いものです。それは天地創造を私たちに追体験させます。神のイェヒ・オール「光あれ！」(創世記 1:3) (単数への呼びかけ) から、ナアセ・アダム「我々は確かに造ろう！人間を！」(同 26) (熟慮と決意の複数形) への進展は、「個人の召命」から「教会の熟慮と決意の総会決議」への進展を連想させるでしょう。混迷の時代に神学生が産み出されることで、教会が教会になっていく、「創造」を想起する1週間となりますように。



「旧約学特論 I」
修士一年による釈義発表風景

■待ちつつ急ぎつつ **森 裕貴** 九州バプテスト神学校 専攻科1年 門司バプテスト教会推薦

いつも神学校の働きと神学生の学びをおぼえ、祈り、献げ、支えてくださる皆さまには心より感謝申し上げます。私自身もいろんな教会で説教の機会を与えてくださり、つたない説教に真剣に耳を傾けていただき、さらには学びへの励ましのお手紙を頂戴しましたことが何より励みになっています。

3年間の本科の学びを終え、4月からいよいよ2年間の専攻科での学びに入ります。これまでを振り返ってみると、50歳を超えるおじさんには神学校の授業はちょっと無理かなと思いつつも入学しました。しかし入ってみると若者男女さまざまな方々が仕事のかたわら学びに来られており、逆に勇気づけられました。最初はよくわからなかった授業も、日常生活のふとした瞬間や日曜日の礼拝での説教を聞いて「そういうことだったのか！」と思わされるのが度々ありました。働きながら学びを続けていくと、どうしても未視聴の授業や提出しないといけない課題が溜まってしまいます。何度も「もう無理！」と思いましたが、先生方の熱いご指導と主がいつもそばにいて導いてくださったおかげで何とか無事に続けることが出来ました。

私自身は少々早いです。主の招きに従って、学びを続けながら教会主事としての活動も始めました。しかし、まだまだ力不足で、これからの専攻科での学びの課題としたいと考えています。将来、牧師として、さらに主の御用が出来るよう待ちつつ、与えてくださった専攻科での2年間の学びを急ぎつつ、これからも主のみ旨につき従って歩む所存です。



「新約聖書概論」のクラス

神学校週間・・・1978年全国壮年会連合第1回総会において、1979年度より6月第4週の1週間を「神学校週間」とすることが決議されました。同年(1978年)第32回日本バプテスト連盟総会で、この「神学校週間」設定が可決されました。

サイト版QRコード

